

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：84604

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00717

研究課題名(和文) 南都の未整理文書聖教にもとづく寺社とその周辺社会の調査研究

研究課題名(英文) The Study of Temples, Shrines and Community in the Southern Capital (Nara) based on Investigation of disorganized historical and religious Documents

研究代表者

吉川 聡 (Yoshikawa, Satoshi)

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・文化遺産部・部長

研究者番号：60321626

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：奈良の大寺院や個人に伝来した資料などを膨大に調査して、研究者が利用できるようにした。

その過程で、東大寺関係の中世文書を多数見だし、紹介することができた。また、近世の東大寺とその末寺に関する詳細な事実を明らかにできた。

また近世に奈良の惣年寄だった家の資料を調査し、織田信長配下の武将からの書状を多数見だし、紹介できた。そして中世の南山城の地侍が、戦国時代の動乱を経て近世に奈良で重要な役割を果たすに至った経緯を明らかにできた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

奈良には研究者が利用できない状態にある、未整理の資料が多くある。それらを利用可能にしたことは、今後の研究進展のためには大きな成果である。

またその際の調査研究により、古代寺院・古代以来の制度が近世にかけて、変質しながら受け継がれてきた様相を考察することができた。

さらに、中世から近世にかけて、奈良の人的ネットワーク・文化・産業の様相を、従来とは異なる視点から捉えることができた。都市としての奈良の発展を考える上で重要な成果となった。

研究成果の概要(英文)：We have investigated a huge amount of old documents owned by Nara's families and great Buddhist temples, and made them available for the researcher's use.

In the process, many medieval documents related to Todaiji Temple were discovered and introduced. Moreover, detailed facts about Todaiji Temple and its subsidiary temples of the early modern period were clarified.

Furthermore, we have researched the old documents of Nara's chief elders (so-toshiyori) from the 17th to the 19th century, found and introduced many letters from military commanders under Oda Nobunaga. The role of a provincial samurai (jizamurai) of Minamiyamashiro in Nara from the 16th to the 17th century was clarified.

研究分野：日本史

キーワード：奈良 寺院史 東大寺 論旨 都市史 織田信長関係文書

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

奈良の大寺社とその周辺社会では、古文書・聖教など、膨大な文字資料が作成・保存されてきた。それら文字資料のうち、重要資料と認識されてきたものは、以前から調査研究の対象となっている。しかし、重要と認識されなかった資料群は、明治維新時の廃仏毀釈の混乱の中で、本来の保管場所を離れて、未整理のままに保管されているものが膨大に存在する場合がある。また南都の諸寺社から散逸して他所の所蔵に帰した資料や、僧が還俗した過程で個人蔵となった資料なども多い。そのような資料は、通常の調査規模では、調査の手が行き届かないのが現状である。それら未整理の資料には、保存環境も劣悪で、散逸の危機に瀕しているものが多くある。それらの資料的価値をあきらかにし、保存・活用への道を開くことは急務の課題である。

また研究状況をかえりみれば、近年、寺社権門の果たした意義が強調されるようになり、寺社研究が盛んとなった。そのなかで、研究は専門分化が進み精緻化している。しかし一方で、歴史・社会の全体像が把握しにくくなっているのも事実である。

### 2. 研究の目的

本研究課題の主眼は、奈良関係の古文書・聖教のうち東大寺や個人が所蔵する未整理資料について、悉皆的な調査研究を実施して資料を保存・公開・活用する道筋を開き、かつ、南都の寺社と、寺社を中心として発達した社会を、総体として理解することを目指すことにある。

すなわち、奈良は南都として多くの大寺社が存続し、近代に廃仏毀釈等の社会変動を経たため、未整理のままになっている古文書・聖教が膨大に存在している。そのような、通常の調査規模では手に負えない資料群について、悉皆的な調査研究を実施する。そして目録を公開し、研究者が資料として使える状態にする。

調査を通じて、奈良の寺社と周辺社会に関する多様な資料を学問の俎上に載せることが出来る。それら資料の個々の内容を研究し、また資料群としての性格を検討することにより、南都の寺社と、寺社を中心として発達した社会を、総体として理解することを目指す。

### 3. 研究の方法

調査研究の対象は大きく二つの柱より成る。一つは、東大寺に存在する膨大な未整理資料であり、一つは、個人等が所蔵する資料である。

の主体は、従来も調査研究してきた新修東大寺文書聖教である。以外には、近年見いだした東大寺中性院の襖下張り文書がある。の主体は、前近代に興福寺の承仕の職を世襲した家である、中村泰氏が所蔵する資料である。その他にも、従来ほとんど存在が知られていない個人蔵等の資料にも取り組む。

上記に挙げた資料は従来、全く調査研究されておらず、何があるかも分からず、放置すれば散逸する恐れもある。以上のような、従来の態勢では調査の手が行き届かない多様な奈良の資料について、調査研究の対象とし、目録を整備し、学問的な意義を明らかにし、保存・公開・活用への道を開く。

このような未整理資料は、時代も内容も千差万別である。それゆえに、元来の資料群としての姿を残している場合がある。そのような種々雑多な資料に対して、一つは、個別に理解を深めて未知の事実を掘り起こす。また一つは、資料群に総体として接し、昔の資料群の姿を探求することにより、資料群や、それらを蓄積してきた寺社・社会の特質を探求する。そのような研究を通じて、個別分散化した学問を再統合する視点を追求する。

### 4. 研究成果

一つ目の柱、東大寺に存在する膨大な未整理資料に関して。その中の新修東大寺文書聖教については、第78函～第100函(第93函・第98函・第99函を除く)の目録を完成させた。また既調査資料の中で興味深いものについて、研究代表者・研究分担者・研究協力者が各自で調査研究して理解を深め、論文を執筆した。それらの調査研究成果を取りまとめて、報告書『東大寺図書館所蔵 新修東大寺文書聖教調査報告書 第七八函～第百函』(奈良文化財研究所、2024年)を公刊し、目録・論文を収録して公表した。収録論文では例えば、近世の綸旨・院宣について検討して基礎的な事実を明らかにし、中世から近世へ、また近世から近代への古文書学上の見通しを示した。また近世に東大寺領となっていた周防国衛の状況を考察した。その他、東大寺の古代以来の法会の近世における実態や、戒壇院・五劫院・眉間寺・安倍寺等、東大寺子院・塔頭などの中近世の状況について考察した。このように、古代以来の寺院がその後どのように変化していったのか、等の点について興味深い内容を明らかにできた。

またの東大寺中性院の襖下張り文書に関しては、研究分担者の横内裕人が中心となり、糊

を剥がし調査する作業をおこない、またそこから見いだした文書の釈読・検討作業を実施した。その結果、重要資料の一部を学術雑誌上に公表し、その意義を論じることができた(東大寺中性院襖下張文書研究会「史料紹介 東大寺中性院襖下張文書」『南都佛教』第101号、2020年)。公表資料は法華堂堂衆に関する史料群で、鎌倉時代から室町時代に及んでいる。近年注目を集めている「宝珠院文書」に関連するものであり、既知の資料と合わせて考察することにより、さらなる研究の進展が期待される。

二つ目の柱、個人等が所蔵する資料に関して。前近代に興福寺の承仕の職を世襲した家である、中村泰氏が所蔵する文書については、調査を進めた結果、当該文書は研究代表者が所蔵する奈良文化財研究所に寄贈され、保存が図られた。調査では悉皆的な目録を作成しつつあり、承仕の職の様相や、明治維新時の顛末などが明確になりつつある。

また その外にも調査研究を進めることができた。まず、 - 1 江戸時代に奈良で惣年寄を世襲した清水家の古文書調査を実施し、報告書を『元奈良町惣年寄 清水家資料調査報告書』(奈良文化財研究所、2023年)として公刊した。これは、江戸時代に奈良町惣年寄を世襲した清水家が所蔵する資料の調査報告書である。この調査研究により、清水家は室町時代には南山城の祝園の地侍的な存在だったこと、16世紀後期に河内守護畠山氏の被官となっていること、その後織田信長に仕えたこと、豊臣政権期に奈良に居住し、連歌などの文化面で活躍したこと、17世紀半ば以降、町人として惣年寄を世襲したこと、江戸時代中後期には奈良晒し・算術など、奈良の産業・学問振興に関わっていたことなどが明らかとなった。そして特筆すべきことに、織田家の武将などが清水家にあてた書状が50通近くも確認された。その結果、信長の石山本願寺攻め関係資料など、戦国・織豊期の政治史研究に有用な資料紹介をおこなうことができた。中世の南山城の有力者が戦国・織豊期に実力を蓄え、奈良の市政に入り、近世に文化・産業等に関与した様相を明確にできた。都市としての奈良町研究に新たな視点を加えたと言えよう。

また - 2 研究分担者の横内裕人が中心となり、東大寺から寺外に流出した古文書の調査を実施した。その結果、京都市歴史資料館に保管される燈心文庫の東大寺文書について、報告書を『京都市歴史資料館所蔵 燈心文庫本東大寺文書調査報告書』(京都府立大学文学部歴史学科、2024年)として公刊した。ここでは合計82通の東大寺文書を紹介したが、ほぼすべてが中世文書であり、兵庫北関関係史料や法会の請定を含む貴重な内容である。

以上のように、南都の寺院内部に遺存している未整理資料、また寺外に流出した資料についてその内容を把握・紹介し、研究者が使用できる状態とした。そこで見いだした重要資料から、古代寺院・古代以来の制度が近世にかけて、どのように変質しながら受け継がれてきたのか、等の様相を考察することができた。また奈良関係資料の調査によって、織田信長関係の古文書も見いだすことができ、寺院社会の周辺に成立した都市・奈良の人的ネットワーク・産業等に関しても、見通しを得ることができた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計27件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 吉川聡	4. 巻 -
2. 論文標題 金峯山寺の神仏分離のはじまり	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 吉野山舟知家資料調査報告書	6. 最初と最後の頁 17-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉川聡, 橋悠太, 上相英之	4. 巻 45
2. 論文標題 当麻寺曼荼羅堂・金堂の中近世銘文	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 木簡研究	6. 最初と最後の頁 119-185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川聡	4. 巻 -
2. 論文標題 唐招提寺宝蔵の「諸人忌日料田畠施入目録」をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 覚盛上人御忌記念 唐招提寺の伝統と戒律	6. 最初と最後の頁 347-369
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉川聡	4. 巻 -
2. 論文標題 新修東大寺文書聖教第七八函～第百函の調査と概要	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東大寺図書館所蔵 新修東大寺文書聖教調査報告書 第七八函～第百函	6. 最初と最後の頁 5-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 遠藤基郎	4. 巻 -
2. 論文標題 新修東大寺文書聖教の「見取り図」試論	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東大寺図書館所蔵 新修東大寺文書聖教調査報告書 第七八函～第百函	6. 最初と最後の頁 12-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠藤基郎	4. 巻 -
2. 論文標題 享保五年七月武家・公家東大寺文書目録とその関連文書	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東大寺図書館所蔵 新修東大寺文書聖教調査報告書 第七八函～第百函	6. 最初と最後の頁 24-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横内裕人	4. 巻 -
2. 論文標題 「戒壇院本尊靈宝并諸道具勘渡帳」について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東大寺図書館所蔵 新修東大寺文書聖教調査報告書 第七八函～第百函	6. 最初と最後の頁 30-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂東俊彦	4. 巻 -
2. 論文標題 近世東大寺における法会再興の一形態 史料紹介「東大寺良弁会方広会日記」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東大寺図書館所蔵 新修東大寺文書聖教調査報告書 第七八函～第百函	6. 最初と最後の頁 49-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安永寛	4. 巻 -
2. 論文標題 新修東大寺文書聖教から見た近世の周防国衛領・国衛候人	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東大寺図書館所蔵 新修東大寺文書聖教調査報告書 第七八函～第百函	6. 最初と最後の頁 58-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田淳平	4. 巻 -
2. 論文標題 幕末期安倍寺の境内整備 近世末寺史料の一例として	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東大寺図書館所蔵 新修東大寺文書聖教調査報告書 第七八函～第百函	6. 最初と最後の頁 68-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水谷友紀	4. 巻 -
2. 論文標題 東大寺文書にみる近世の五劫院	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東大寺図書館所蔵 新修東大寺文書聖教調査報告書 第七八函～第百函	6. 最初と最後の頁 77-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橘悠太	4. 巻 -
2. 論文標題 眉間寺についての一考察 新修東大寺文書聖教中にみえる中世文書の紹介をかねて	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東大寺図書館所蔵 新修東大寺文書聖教調査報告書 第七八函～第百函	6. 最初と最後の頁 84-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富田正弘	4. 巻 -
2. 論文標題 東大寺伝来近世繪旨院宣等の伝存状況と形態・料紙	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東大寺図書館所蔵 新修東大寺文書聖教調査報告書 第七八函～第百函	6. 最初と最後の頁 96-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉川聡, 橘悠太, 上相英之	4. 巻 45
2. 論文標題 当麻寺曼荼羅堂・金堂の中近世銘文	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 木簡研究	6. 最初と最後の頁 119-185
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川聡, 橘悠太	4. 巻 2023
2. 論文標題 当麻寺所蔵古經典の調査	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横内裕人	4. 巻 3
2. 論文標題 『東大寺要録』(醍醐寺本)紙背文書	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東大寺叢書	6. 最初と最後の頁 435-446
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川聡	4. 巻 2
2. 論文標題 興福寺二条家記録「文亀三年引付」の紹介	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 奈文研論叢	6. 最初と最後の頁 163-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川聡, 橘悠太, 目黒新悟, 山崎有生, 上槌英之	4. 巻 3
2. 論文標題 当麻寺巻柱とその銘文の調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 奈文研論叢	6. 最初と最後の頁 216-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川聡	4. 巻 897
2. 論文標題 書評と紹介 眞田尊光著『鑑真と唐招提寺の研究』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 91-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川聡	4. 巻 5
2. 論文標題 平城京・宮のあとの断章 奈良文化財研究所の敷地から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 文化財論叢	6. 最初と最後の頁 563-582
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 横内裕人	4. 巻 -
2. 論文標題 中世東大寺律儀復興史小考－戒壇院と別所系律院 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 凝然教学の形成と展開	6. 最初と最後の頁 237-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横内裕人	4. 巻 46
2. 論文標題 続・中世東大寺律儀復興史小考 円照時代の戒壇院	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東アジア仏教思想史の構築 凝然・明恵と華嚴思想 龍谷大学仏教文化研究叢書	6. 最初と最後の頁 185-227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 東大寺中性院襖下張文書研究会 (岩永紘和・宇佐美倫太郎・納田敬吾・坂東俊彦・三輪真嗣・横内裕人)	4. 巻 101
2. 論文標題 史料紹介 東大寺中性院襖下張文書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南都仏教	6. 最初と最後の頁 150-168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川聡	4. 巻 88
2. 論文標題 唐招提寺・長福寺の田島目録木札	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 151-154
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水谷友紀	4. 巻 101
2. 論文標題 近世・近代法華寺史小考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南都仏教	6. 最初と最後の頁 108-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉川聡	4. 巻 2018
2. 論文標題 興福寺承仕関係文書から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 奈良文化財研究所紀要	6. 最初と最後の頁 42-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横内裕人	4. 巻 100
2. 論文標題 東大寺印蔵の文書管理構造ー所司と大衆の関わりを中心にー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 南都仏教	6. 最初と最後の頁 116-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 吉川聡, 橘悠太, 上相英之, 目黒新悟, 山崎有生
2. 発表標題 当麻寺の中近世銘文の調査 曼荼羅堂・金堂につき
3. 学会等名 第43回木簡学会総会・研究集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉川聡
2. 発表標題 平城宮・京のあとの歴史
3. 学会等名 2019年度読史会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横内裕人
2. 発表標題 東大寺文書の修理史
3. 学会等名 第2回日本宗教文献調査学 合同研究集会「宗教文化遺産の未来のために」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横内裕人
2. 発表標題 元興寺の中世化
3. 学会等名 記念シンポジウム『平城京と元興寺 その創建とうつり変わり』（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横内裕人
2. 発表標題 寺院文書の特質
3. 学会等名 歴博フォーラム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横内裕人
2. 発表標題 東大寺と鎮守八幡宮 神仏習合と大衆の成長
3. 学会等名 東大寺学講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 富田正弘
2. 発表標題 東寺百合文書と杉原紙
3. 学会等名 日本古文書学会研究大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 吉川聡, 徳永誓子, 栗原正東, 黒岩康博, 山田淳平, 島田敏男	4. 発行年 2024年
2. 出版社 奈良文化財研究所	5. 総ページ数 346
3. 書名 吉野山舟知家資料調査報告書	

1. 著者名 吉川聡, 遠藤基郎, 横内裕人, 坂東俊彦, 安永寛, 山田淳平, 水谷友紀, 橘悠太, 富田正弘	4. 発行年 2024年
2. 出版社 奈良文化財研究所	5. 総ページ数 494
3. 書名 東大寺図書館所蔵 新修東大寺文書聖教調査報告書 第七八函～第百函	

1. 著者名 横内裕人,三輪眞嗣,泰地翔大	4. 発行年 2024年
2. 出版社 京都府立大学文学部歴史学科	5. 総ページ数 112
3. 書名 京都市歴史資料館所蔵 燈心文庫本東大寺文書調査報告書	

1. 著者名 吉川聡 等	4. 発行年 2023年
2. 出版社 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	5. 総ページ数 214
3. 書名 元奈良町惣年寄 清水家資料調査報告書 平成30年度～令和4年度科学研究費補助金(基盤研究(B))「南都の未整理文書聖教にもとづく寺社とその周辺社会の調査研究」成果報告 第1冊	

1. 著者名 奈良文化財研究所・東京大学史料編纂所(編集 吉川聡等)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 奈良文化財研究所・東京大学史料編纂所	5. 総ページ数 301
3. 書名 薬師寺文書目録 第1巻	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	渡辺 晃宏  (Watanabe Akihiro)  (30212319)	奈良大学・文学部・教授   (84604)	
研究分担者	橘 悠太  (Tachibana Yuta)  (40847662)	独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・文化遺産部・客員研究員   (84604)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	横内 裕人  (Yokouchi Hiroto)  (50706520)	京都府立大学・文学部・教授    (24302)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	富田 正弘  (Tomita Masahiro)	富山大学・名誉教授   (13201)	
研究協力者	遠藤 基郎  (Endo Moto)  (40251475)	東京大学・大学院情報学環・学際情報学府・教授   (12601)	
研究協力者	坂東 俊彦  (Bando Toshihiko)	東大寺史研究所・研究員	
研究協力者	水谷 友紀  (Mizutani Yuki)	京都府立大学・共同研究員	
研究協力者	山田 淳平  (Yamada Junpei)	奈良県・文化・教育・くらし創造部 文化財保存課 美術工芸担当・主査	
研究協力者	安永 寛  (Yasunaga Hirosi)	京都大学・大学院文学研究科 博士後期課程	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------